

内装に国産材を使用した観光列車「ろくもん」運行開始

7月11日、しなの鉄道(長野県上田市)の観光列車「ろくもん」の運行が開始されました。

列車自体が長野県の観光地となることを目指したという3両編成の車内は、車両ごとにインテリアが異なり、国産材をふんだんに使用したデザインで落ち着いた雰囲気を出しています。

「ろくもん」は、しなの鉄道の軽井沢駅からJRの長野駅までの総延長74.4kmを景勝地で減速するなどしながら約2時間半で結ぶ観光列車です。

赤色を基調とした車体で、名称は真田氏の家紋「六文銭」にちなんで名づけられました。車両デザインを担当したには、JR九州の豪華観光列車「ななつ星in九州」を手がけたデザイナー・水戸岡鋭治さんで、座席やテーブルなど内装の各部分に長野県産の木材

を多用し、1号車はカラマツ、2号車はスギ、3号車はヒノキを主に使用しています。

1号車は家族連れやグループ向けの車両で、座席は24席。遊び場として木製の玉を敷き詰めた円形の「木のプール」が設置されています。2号車、3号車は共にレストランカー(食堂車)で、2号車は全28席のコンパートメントで、ボックス席や窓側を向いたカウンター席やソファ席、ブース席、サロンスペースが設けられています。3号車は全20席のコンパートメントで、壁と障子によって仕切られた落ち着いた空間となっており、車椅子対応のトイレも設けられています。

ろくもんは、軽井沢〜長野間の定期観光列車として、1日3本(軽井沢発2本・長野発1本)、年間180日程度の運行をするほか、団体貸切列車や沿線地域などの企画列車としての運行も予定しています。

「ろくもん」は、しなの鉄道の軽井沢駅からJRの長野駅までの総延長74.4kmを景勝地で減速するなどしながら約2時間半で結ぶ観光列車です。

ろくもんは、軽井沢〜長野間の定期観光列車として、1日3本(軽井沢発2本・長野発1本)、年間180日程度の運行をするほか、団体貸切列車や沿線地域などの企画列車としての運行も予定しています。



1号車の車内



1号車に設けられた木のプール



2号車のカウンター席



2号車のソファ席



2号車のブース席



3号車のコンパートメント